

世界遺産協議会ニュース 第5号発行日平成15年3月20日

1 ユネスコ世界遺産センターに推薦書提出！！

世界遺産登録へ向けて、三重・奈良・和歌山の三県で連携して取り組みを推進してきた「紀伊山地の霊場と参詣道」は、国内での手続きが終了し、1月末にユネスコ世界遺産センターに推薦書を提出されました。

登録までのスケジュールとしては、今年の7月～9月ごろ、ICOMOS（イコモス：国際記念物遺跡会議）により三重・奈良・和歌山の各県で現地調査が行われます。現地調査の後、平成16年6月に開催される第28回世界遺産委員会において、登録の可否が決定される予定となっています。

イコモスの現地調査の対応については、三県で事前に十分協議し、スムーズに実施できるよう準備をします。その際には、コアゾーン周辺の清掃等景観保全についてご協力をいただいたくことがあるかも知れませんのでよろしくお願いします。

世界遺産登録後に大切なことは、住民のすべての方が、自分達の地域を何のために世界遺産として遺していこうとしているのかを認識し、みんなで世界遺産の環境を守り抜く情熱を持ち続けることだと思えます。

2 熊野古道アクションプログラムまとまる！！

世界遺産登録後の熊野古道の保全と活用について、基本方針と具体的な行動計画を明確にした「熊野古道アクションプログラム」がまとまり、最終案が策定メンバーに3月13日に公開されました。

アクションプログラムの本編には策定の目的や基本的な考え方をはじめ、世界遺産に関することや指定予定地域の詳細地図も掲載されています。ワークショップでの討議をはじめ、関係者からのヒアリングや文献調査などをもとに、独自性の確立 総合的な環境保全 内発的な地域振興という「3つの基本」、自主的に行動する 多くの仲間と協働する じっくりと取り組む あるものを利用するという「4つの方針」として整理されました。

また、年度編には各事業主体別の詳細な約170のアクションが、スケジュールを明記した上で「まもる」「いかす」「きづく」の分類ごとにまとめられています。

プログラムは、策定することが目的でなく、それに基づいて実行していくことが大切であることは言うまでもありません。このことから、今後は関係者などによる「熊野古道協働会議」を立ち上げ進行管理をするとともに、基本的な方向性を具体化するプロジェクトへの参加呼びかけなどを行っていきます。これからも、ご協力をいただきますようによりしくお願いいたします。

なお、アクションプログラム本編・年度編、プロジェクトへの参加を呼びかけたパンフレットなどは新年度には配付できる予定です。（問い合わせ 地域振興部東紀州活性化プロジェクト）

3 NPO法人「紀北くまの道」活動情報

昨年6月に「NPO法人紀北くまの道」は発足しました。荷坂峠・始神峠・馬越峠・羽後峠・三木峠・曾根次郎坂太郎坂等を掘り起こし、その保全・管理をしてきた地域の人々のネットワーク化が目的です。語り部の活動にも積極的に参加してきた20名余の情報交換・交流の場といってもよいと思います。それぞれの峠道での活動で忙しく、「紀北くまの道」としての活動はまだこれからという段階です。

昨年11月、紀伊長島国際交流協会と共同で「道の世界遺産 北スペイン巡礼道」の探訪が実施され、3月8日にその報告会がありました。また歴史学者小山靖憲さんによる「熊野古道の世界遺産登録 古道の保全・管理と活用を中心に - 」をテーマにした講演会を開催しました。

歩みはのろいですが、古道に寄せる思いは大きいです。マイペースでゆったりと活動していきたいです。

4 第3回みえ熊野学フォーラムを開催

みえ熊野学研究会による熊野学フォーラムが2月23日(日)に紀宝町老人福祉センターで開催されました。

フォーラムは、横笛奏者・福井幹さんによる演奏会で始まりました。福井さんは現在、新宮市在住ですが、紀和町の出身で、今回の演奏は、熊野をテーマに自作の曲を演奏していただきました。竹の素朴な音色が館内いっばいに響き渡りました

次に、国際日本文化研究センター所長の山折哲雄さんにより、「日本人と信仰～聖地と巡礼～」をテーマに基調講演がありました。

巡礼道としての熊野古道の魅力についても様々な見方をする必要があります。かつて日本列島に存在した様々な山岳信仰のもっとも重要なものの一つに泉信仰があります。この信仰の原点を作ったのが熊野です。

熊野古道は山あり谷あり川あり海ありでこんな起伏と変化に富んだ巡礼道は世界的に見て珍しい。このそれぞれに命が宿り自然と人が共存するところが熊野の地です。

日本の信仰は一神教とは違いあらゆるものに命が宿り信仰の対象となっています。これがまさに熊野の地の信仰で、日本から発信するのは豊かな自然を遣し続け、保存し続けている熊野の緑なす遺産です。早い機会に世界遺産に登録し、熊野からのメッセージを世界の様々の分野の人々に向けて発信してゆくことが必要だと思っています。

基調講演に続いて山折さんと俳人黛まどかさんとの対談が行われました。「巡礼者の辿った道」がテーマですが、内容は、世界遺産唯一の巡礼道、スペインの「サンティアゴ巡礼道」と熊野古道の比較。巡礼道をたどった思いが中心でした。

黛さんはサンティアゴ巡礼道を48日かけて歩いそうです。「スペインはものすごく強い日差しの中、ヒマワリやラベンダーといった明るい花が咲いているのになぜか心の中は明るい感じがしない。一神教であるカトリックの信者が神に向かって一心ひたむきに歩いていくという巡礼スタイルから来るのでは」と言っていました。

さらに、「一方で熊野巡礼はなにかいいようなない明るさに包まれているような感じがする。物理的には暗いはずなのに心の中は明るい。」と違いを言っていました。

歩くことによって心の渇きを充たす。そして山を歩き木々を見てそこになにか人間の力を離れたものの姿や先人達の思いを感じながら歩く。そして、歩きの旅だからこそ得られる神様からプレゼント。神を身近に感じられる喜びが得られると締めくくられました。



(山折 哲雄さん)



(山折さんと黛さん)

連載（第5回）（未発表熊野古道古文書）

（この連載は副会長の野田敦美さんによるものです）

熊野街道の盲人たち

天保七年七月～嘉永二年十月までの「諸国旅人帳」によると、途中で体調不良になり、「村送り」になって尾鷲を通りすぎていった盲人の例が五人記されている。そのうち四人は「検校」（盲人の最上級の官名）の弟子だったりする門下生で、一人は途中盲人になった人である。以下その例である。

口上

京都田村検校下

勢州伊高郡塚元村

盲人 琴 聲

年 三十四才

一 病人 吉人

右の者は当九月二十五日当浦へ罷り越し候ところ、道中にて足痛み、当村にて四五日薬用養生等致させ候えども、その功も相見え申さず候、盲人の儀不自由のため難渋仕り、急々快気の程も相見え申さず候、何分御慈悲の御了簡をもつて、何卒早々在所へ村送りなし下され候様願出候につき相糺し候ところ、難渋者に相違もこれ無く候、誠に難儀に候、村送り寺送り等も持参御座無く候えども、難渋者候につき、何卒御村々御救いの御慈悲をもつて、早々塚元村へ送り届け成し遣わされ候様致したく、お願い申し上げ候、前件難渋盲人の儀、村々宜しく御心添え成し遣わし致され候、これに依り京都田村検校口上書相添え、かくの如くに御座候

奥熊野早田浦

天保七年

庄屋

申十月朔日

四郎右衛門

印

二日早朝通る

奥熊野早田浦より

勢州伊高郡塚元村まで

右村々庄屋中様

天保七年（一八三六）勢州伊高郡塚元村

（現松阪市塚本町）から奥熊野早田浦（現尾鷲市早田町）まで、盲人の琴聲は、熊野道をいくたの峠道を越え、八木山の九木峠から九木へ下り、渡し舟で向う岸へ渡り峠道を登って早田へ下りてやってきたのだらうか。それともどこから舟にのせてもらってやってきたのだらうか。前記口上書中に、「…道中にて足痛み…」とあるから歩いてきたのである。熊野道のいくつかの峠を盲人の身で歩いて越えることの難儀さは想像を絶する。ひとりでは無理である。だれか附添がいたのではなからうか。

自分の心身のなんともいえぬ病を癒そうとえもいわれぬ体をひきずって熊野権現に向かった人たちもいたであらう。そのいぢずな気持ち小栗判官説話ではないが、ひつきりなしに通る参詣人巡礼の気をひきつけ、手をかしてくれすることもあつたように盲人の場合もあつたかも知れない。

本道からわざわざ脇道にそれて早田へ来たのか。この盲人は「京都田村検校下」にあることから、平曲語り、三味線、箏曲、按摩のいずれかが出るのであらう。そのことが早田へやってきたことと関係がありそう。招かれて迎えがあつてやってきたかも。

村送りになり帰っていくとき、十月二日早朝、尾鷲大庄屋役所を通っているが、盲人を連れまだ暗いうちに早田を発ってきたのだらう。これから松阪までいくのだが、琴聲さん、御無事で、そして途中の村々の介添運搬人御苦労さんです。



5 熊野古道リレー講演会開催中

熊野古道のリレー講演会が開催されています。

第1回「熊野古道について」(終了しました)

日時 3月8日(土)
場所 尾鷲庁舎5F大会議室
講師 小山靖憲さん(帝塚山大学教授)
主催 東紀州活性化協議会・NPO法人紀北くまの道

第2回「尾鷲大庄屋文書に見える尾鷲の暮らし」

日時 3月23日(日)午後1時30分～3時
場所 尾鷲市教育委員会3F会議室
講師 塚本明(三重大学教授)
主催 会議くまの道



野口雨情石碑建設予定地
(どこかあててみてください。)

第3回「尾鷲小唄と野口雨情」

日時 3月30日(日)午後1時30分～3時30分
場所 尾鷲市民文化会館(瀬木山ホール)小ホール
講師 東道人さん(伊奈波神社宮司)
童謡と小唄の合唱 川上恵理子さん・若林尚子さん・川口堅土さん・畑中小裕さん
主催 もてなしのさとづくり会議・NPO法人紀北くまの道

6 三重交通春の大遠足が始まる。

今年も3月から三重交通の熊野古道大遠足が始まりました。今年も日帰り13コース、宿泊1コースが設定されています。熊野古道に来る三重交通のバスを見かけませんか？紀北地域では、新コースとして一石峠～熊谷道コースが登場しています。なお、今年は尾鷲イタダキ市とのタイアップも予定されています。古道と一緒に朝市も賑わうといいですね。

編集後記

世界遺産登録推薦書が1月にユネスコへ提出されました。これで世界遺産への国内手続きはすべて終了しました。平成15年は各市町村・県などいろいろな所で世界遺産登録イベントが開催されます。

花粉の時期もそろそろ終わりが近づいてきました。この時期ツツラト峠の花広場では菜の花が満開です。ぜひ一度ツツラト峠に足を運んでみませんか。



(ツツラト峠の菜の花畑)

発行元 世界遺産登録推進紀北地域協議会事務局

〒519-3695

尾鷲市坂場西町1-1 三重県紀北県民局企画調整部内

電話 0597-23-3409

FAX 0597-23-2130

URL <http://www.pref.mie.jp/OKIKAKU/HP>